

平成 26 年度 第 1 回 水工学委員会および幹事会 議事録 (案)

日 時：平成 26 年 6 月 30 日 (月)

場 所：土木学会 2 階講堂

水工学論文賞選考小委員会 (水工学論文集編集小委員会) 兼 幹事会 12:00~13:00

水工学委員会 13:30~16:30

出席者：浅沼順、石平博、泉典洋、今村正裕、大石哲、大槻英樹、大本照憲、川越清樹、河原能久、神田佳一、神田学、篠田成郎、清水康行、杉原裕司、角哲也、関根正人、竹林洋史、立川康人 (幹事長)、田中規夫、田中仁、田中昌宏、辻本哲郎、戸田祐嗣、富永晃宏、中北英一、中嶋規行、中津川誠、福濱方哉、堀智晴、松田寛志、道奥康治 (委員長)、武藤裕則、湯浅岳史 (藤堂委員の代理)、横山勝英、渡辺勝利 (50 音順、敬称略)

《報告事項》

1. 水工学委員会構成 資料 1、資料 2 (5 頁)

2. 水工学に関する夏期研修会 (8 月 25 日(月)、26 日(火)、九州工業大学) 資料 3 (9 頁)

杉原委員から準備状況が説明された。学生・院生の受講料を 10,000 とした。8 月 15 日が申し込み締め切りである。学生等の参加が要請された。今後の会費について、参加者のアンケートを取って今後の対応を考えることが提案された。会員のメリットは重要な視点なので、それを考慮した参加費を考える必要があることが指摘された。

3. 水シンポジウム in ながさき (8 月 21 日(木)、22 日(金)、長崎ブリックホール) 資料 4 (16 頁)

幹事長から準備状況が説明された。「水シンポジウム in ながさき」のホームページ <http://www.mizusinpo2014.com/> が開設されており、そこから申し込みが可能である。多くの方々の参加をお願いしたい旨、報告された。

4. 全国大会研究討論会 (大阪大学)

○9 月 10 日(水) 16:15-18:15 【研 09】 豪雨災害に挑む！～近年の国内での水害の特徴と対策～、豊中総合学館 302

堀水害対策小委員長から討論会の開催趣旨と準備状況について説明があった。

○9 月 12 日(金) 12:45-14:45 【研 10】 水理・水文解析のための汎用プラットフォームによる協力連携と人材育成、豊中総合学館 302

幹事長から討論会の開催趣旨と準備状況について説明があった。

5. 水理公式集改訂小委員会について 資料 5 (18 頁)

辻本小委員長から水理公式集の目次と主査、幹事について紹介がなされ、進行状況について説明がなされた。また、水工学委員に協力が要請された。初校の締め切りは 9 月 1 日厳守でお願いしたいと

の強い要請があった。

6. 各部会、小委員会、関連委員会の活動報告及び活動計画 資料6 (34頁)

部会：水文部会、基礎水理部会、環境水理部会、河川部会

常置小委員会：地球環境水理学、東南アジア河川、ISO/TC113、流量観測高度化、水害対策

出版関連：水理公式集改定小委員会、水理実験指導書編集小委員会、論文編集委員会

関連委員会：海岸、沿環連、地球環境、環境システム、ISO、流域管理と地域計画の連携、  
河川懇談会、CommonMP

部会長、小委員長から各部会、各小委員会の活動報告と今年度予定に関する報告があった。詳細は資料の通りである。

7. 平成26年度調査研究拡充支援金の配分について 資料7 (63頁)

幹事長からAランクの活動評価であり、例年とほぼ同額の調査研究拡充支援金が確保されることが報告された。委員長から各委員の精力的な活動に対して謝意が述べられた。

8. JSCE2010 平成25年度部門別自己評価について 資料8 (64頁)

幹事長から平成25年度の活動報告について紹介がなされた。

9. JSCE2015 について 資料9 (67頁)

委員長からJSCE2015に対する水工学委員会からの回答について説明があった。

10. 災害調査団の派遣について 資料10 (69頁)

竹林水害対策小委員会幹事長から土木学会の災害調査団を派遣するフローが明確化されたこと、特に派遣届の提出がフローに入ったことが説明された。

11. 強くしなやかな社会を実現するための防災・減災等に関する研究委員会（仮称）への回答

資料11 (70頁)

12. 社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会への回答

資料12 (77頁)

13. 土木学会将来ビジョン策定特別委員会への回答

資料13 (79頁)

委員長から上記について、水工学委員会から回答したことの説明があった。

《協議事項》

1. 平成26年度の年間スケジュールについて

資料14 (85頁)

承認された。

2. 平成26年度第59回水工学講演会の開催について

資料15-1 (86頁)

関根委員から2015年3月14-16日の予定で準備が進められていることが報告された。

3. 平成 27 年度第 60 回水工学講演会の開催について 資料 15-2 (89 頁)  
東北大学のご厚意により、2016 年の 3 月第 3 週開催予定で、開催していただけることとなった。田中(仁)委員から、今後、開催キャンパスを検討していくことが説明された。
4. 平成 27 年度水工学に関する夏期研修会について (海岸工学委員会担当)  
海岸工学委員会が主担当であり、海岸担当幹事は横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院の鈴木崇之准教授、神奈川県での開催が予定されている。水工学委員会からの担当幹事を関東地区委員幹事から選出する必要があり、委員長が人選して依頼することとなった。
5. 平成 27 年度水シンポジウムについて (福井県) 資料 16 (90 頁)  
3 月に委員長と幹事長が福井県庁に赴き福井県での開催が正式に決まったことが報告された。関西地区から幹事を選出する必要があり、委員長が人選して依頼することとなった。なお、分科会開催は基礎水理部会が担当となる。
6. 土木学会水工学委員会水害対応ガイドライン (案) と保険について 資料 17 (91 頁)  
堀災害対策小委員長からガイドラインの説明がなされた。水工学委員会水害対応ガイドラインが承認された。竹林水害対策小委員会幹事長から災害調査に関する保険について説明がなされた。水工学委員会として保険に加入することが承認された。保険の利用についてもガイドラインに記入することが依頼された。
7. 社会支援部門 災害対応WGの設置について 資料 18 (98 頁)  
堀災害対策小委員長が推薦され、承認された。
8. 「International Symposium on Ecohydraulics (ISE) 2018」東京について 資料 18 (99 頁)  
田中(規)委員から ISE2018 東京開催について説明があり、水工学委員会がスポンサーの一つとして加わることが承認された。
9. 学術文化事業寄付 (指定型) について 資料 20 (100 頁)  
第 12 回 ISRS (The 12th International Symposium on River Sedimentation) 実行委員会事務局 (LOC 委員長: 福岡捷二教授、事務局長: 中川一教授) から、水工学委員会が行う活動に対して、500 万円が寄付されたことが報告された。寄付金の利用目的として以下が提案された。
- (1) 水・土砂災害等のための緊急調査費用の補助
  - (2) 水工学委員会が主催・共催となる水工学に関する国際学会の開催費用の補助
  - (3) 水理公式集など、水工学委員会が発刊する図書の刊行費用の補助
  - (4) その他、水工学委員会が必要と認める事業の補助
- 特に(4)として新たな賞を創設して、その表彰状、メダル作成にこの寄付金を利用することが提案された。賞として以下の意見があった。

- 土木学会賞として賞を新たに設定するのはどうか。
- 土砂水理学に関する基礎的な業績を評価する賞がない。
- 水工学委員会で実施している水工学論文賞や奨励賞とは別のカテゴリの賞を設けてはどうか。単一の論文ではなく、業績を評価する。
- 業績だけでなく、新たな視点の提示や水工学に関する活動、貢献を幅広く評価してはどうか。
- 必ずしも土木学会だけの活動でない水工学に関する幅広い活動を評価できるとよいのではないか。
- 若手をエンカレッジするために、水工学講演会などでの優秀討議を対象とするのはどうか。
- 上記のようなことを評価する賞の場合は内容を特定の分野に限らないほうがよいであろう。
- 土木学会から発刊される英文論文に対する賞を新設してはどうか。

土木学会賞の創設の手続きを調べその可能性を執行部で検討することとなった。また、賞の内容について幹事会で諮ることとなった。

10. 水工学論文集編集作業について 資料21 (102頁)  
 幹事長より日程が示され承認された。

11. 水工学論文賞選考小委員会報告  
 幹事長より、水工学論文賞選考小委員会での論文賞候補論文（案）および論文奨励賞候補者（案）の検討結果が報告された。

12. 平成26年度水工学論文賞および奨励賞候補論文について  
 水工学論文賞選考小委員会での論文賞候補論文（案）および論文奨励賞候補者（案）が承認された。

13. その他  
 土木学会創立100周年記念式典・記念祝賀会 11月21日（金）東京国際フォーラム、帝国ホテル